

## 定期レポート 3月

人間社会科学研究科 1年 熱田知里

### ○学校生活

クリスマスから年末年始にかけてのバカンスを終え、1月3週目から春学期の授業がスタートしました。春学期は、他の学部の授業や演習の授業を多めに取りました。今学期の授業では、自分の興味関心の幅を広げて、フランス語も身につけられれば良いと思います。

秋学期の成績もつい最近発表され、ドキドキしながら確認しました。単位を落としてしまった授業もありますが、ほとんどの授業の単位は取れていたので安心しました。この調子で最後まで気を抜かずに頑張りたいです。

### ○バカンス

春学期には1週間のバカンスが2回あります。1回目は2月に、2回目は4月にあります。2月のバカンスでは、ウィーン（オーストリア）、チェコ、ポーランドを巡りました。ウィーンでは、オーケストラを鑑賞し、チェコではハイキング、ポーランドではアウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館へ行きました。1週間の旅行で詰め込み過ぎたように思いますが、行きたかった場所へ訪れることができ、充実したバカンスを過ごすことができました。

今回訪れた国は、日本のように治安がよく、快適に過ごすことができました。しかし、2月はまだ寒いところが多いので、気候の面では厳しさがあります。滞在中、気温がマイナスになる日もあり、ヒートテックやマフラー、手袋や帽子などの防寒具は必須でした。荷物を預けないプランを予約していたため、機内持ち込みのバックパック一つとトートバッグに荷物を詰め込むしかなく、最低限の荷物で旅行しました。寒い時期だと荷物が増えるので、時期を考えて旅行するのも大切だと思います。

ここからは、旅行中に食べたものを紹介します。





右から、ザッハトルテ（ウィーン）、シュニッツェル（ウィーン）、牛肉のカルパッチョ（プラハ、チェコ）、ミルコ（プラハ）、ブランボラーク（ジャガイモのパンケーキ）（チェコ）、ピエロギ（ポーランド）

チェコはビールが有名なので、滞在中は毎日ビールを飲みました。これは、泡を楽しむ「ミルコ」という注ぎ方です。日本のビールよりも淡白で飲みやすく感じました。

ポーランドでは、はちみつのビールが有名だそうです。ビールのビターな風味がはちみつで緩和され、とても美味しかったです。甘味があるというよりかは、はちみつの甘い香りがするという感じでした。

ピエロギはポーランドの郷土料理で、水餃子のような料理です。小麦粉でできた生地できのこやチーズなどが包まれています。お店によってピエロギの具材は色々あるので、食べ歩きするのも良さそうです。

### ○日々の生活

バカンスを終えてリヨンに帰ってくると、とても暖かくなっており、春になっていました。街には、道路沿いには桜のような花が、トラムの線路沿いには小さな花が咲いていて、街が一気に明るくなりました。冬の間は曇りの日が多かったのですが、最近は晴れの日が続いて日差しが眩しく感じるようになりました。過ごしやすい気候になり、通学もバスを使わずに歩くなど、残り少ないリヨンでの生活を楽しめるように工夫しています。

語学面では、パン屋さんやスーパーなどでお店の人が言っていることを理解して答えられるようになったり、レストランやメトロの中で隣の人がどんな話をしているのかわかるようになったりしてきました。その一方で、留学生の友達が流暢なフランス語を話しているのを見て、自分の力不足を感じます。語学力が伸びているという自信はないのですが、留学が始まったばかりの頃と比べると、多少は伸びているのかなと思います。残り3ヶ月と少しの留學生活で、さらに語学を磨いていきたいです。



フランスは日本よりも早く桜が開花しています。日の出も早くなり、日が暮れるのも遅くなったので、1日が長くなったような気がします。明るいうちに通学できるので授業に行くのが楽しくなりました。